

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	平成 30 年 4 月 30 日
報告者	山形 佳那
助成団体名 (所属団体名)	一般社団法人 Le Houx
団体住所	〒 520-0001 滋賀 都道府県 大津市蓮池町 10-3
団体電話番号	077 - 525 - 1313
代表者 (助成対象者)	山形 佳那
助成対象事業	放課後等デイサービス
事業（助成）期間	平成 29 年 6 月 ~ 平成 30 年 3 月
事業費総額	7,302,509 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

放課後等デイサービスは、障害のあるお子さんを放課後に預かり、セラピーや療育を行う県の認可事業です。

当事業所には、主にカラーセラピー、タッチセラピー、作業療法、音楽療法、アートセラピー、コーチング等を行い、これまで抑圧されてきた感情を一旦表出させた上でのケアを行っています。

障害福祉分野においては、「私たちのことを私たち抜きで決めないで。」というキャッチフレーズもあるほど、時にして支援者側や保護者側の「こうなって欲しい。」が一人歩きしてしまいます。

例えば、一人遊びが好きなお子さんに対し、本人が望んでいないにもかかわらず、集団の仲間に入り遊ぶために声をかけられるようになる訓練を行う。などです。

当事業所では、「ご本人がどうなりたいのか？」を一番に大切にし、その思いに沿った支援を行っています。

3、事業成果

・気持ちの切り替えの苦手さからパニックを起こされる事が多いお子さんの場合
当事業所以外の場所において、パニックを起こすたびに周囲の大人から怒られる体験を繰り返してこられました。

他害、破壊行動などおありですが、当事業所では「今日だけは怒られない日」という理念の通り、セラピーを行いながら、決して怒らず根気強くご本人の思いを受け止め寄り添い続けたところ、約3ヶ月で当事業所でのパニックはほぼ無くなりました。(事業所外では続いている。)

また、言葉で気持ちを表す事が苦手なお子さんのため、様々な方法で「なぜパニックを起こされたのか」の原因を突き止められた事により、パニックを未然に防ぐ事ができるようになりました。

・事業所からの飛び出しが激しかったお子さんの場合

集団が苦手であったり、自由や好きな事をする時間と言われても困ってしまうお子さんが、事業所から毎日飛び出されるケースがありました。

大人への試し行動でもあったため、「特性だから止めることは出来ない。」と決して決めつけず、寄り添い続けました。

同時に、飛び出しの危険性を訴える視覚化をしたり、話をし続けた他、室内での過ごし方もご本人のニーズに合ったものを提供するなど環境調整を行い、約1ヶ月半で危険行為がなくなりました。

・特有の感覚を欲しておられるお子さんの場合

感覚統合障害のお子さんは、アイロンビーズを手でシャラシャラしたり、床に撒いたりする事で、手から伝わる感覚や音を楽しまれるお子さんや、机の上に乗っていつもと違う景色を楽しまれるお子さんなど、特定の感覚を欲しておられる場合があります。

一般的には「問題行動」と捉えられ大人の常識で辞めさせがちですが、当事業所では思う存分必要とされている感覚を味わってもらいます。

その結果、感覚の凸凹さが調整され、それぞれの感覚分野が整って行きます。

感覚分野が整うと、次の感覚を求め新しい行動にチャレンジができるようになるため、一般的には「問題行動」とされがちな行動も自然と消失しました。

4、今後の課題など

・当事業所をご利用になるまでの間に蓄積されてきた、自他への『怒り』や『失望』や『悲しみ』の感情が、セラピーと共に、他害や自傷という形で表出してくる事が多々あります。

大人が思いもかけない形で大爆発（俗に言う「キレる」）してしまう前に、表に出てきたことは望ましい事ではありますが、利用者が最大10名の平日では、一人一人の内面を深掘りするには限界があるため、別枠でしっかり時間を取れる個別でのセラピーやカウンセリングがプラスαが必要です。

・平日では場所の制限もあるため、土曜日等に外部からもカウンセラーや療法士を招き、精神面及び肉体系のケアを個別で行う体制が必要です。

・一人一人個性や状態が違うため、平等よりも公平さが必要だという考え方を職員全員に定着させる事が今後の課題です。